

(1) 有料化実施前後のレジ袋辞退率もしくはマイバッグ持参率について

1) 当該数値の算出方法

- ・マイバック持参率は、事業者が提出する報告書に基づき集計を行っている。算定式は以下のとおりである。
- ・マイバッグ持参率 = (レジ通過者 - レジ袋販売枚数) / (レジ袋通過者) × 100 である。

2) レジ袋辞退率もしくはマイバッグ持参率が向上した(しなかった)理由

- ・レジ袋有料化実施に合わせ、自治体・事業者等が連携したマイバッグ持参啓発キャンペーンを実施し、消費者への説明を十分行うなどした結果、有料化がスムーズに浸透し、マイバッグ持参率が向上した。

【長崎県廃棄物対策課によるツイッター発信】



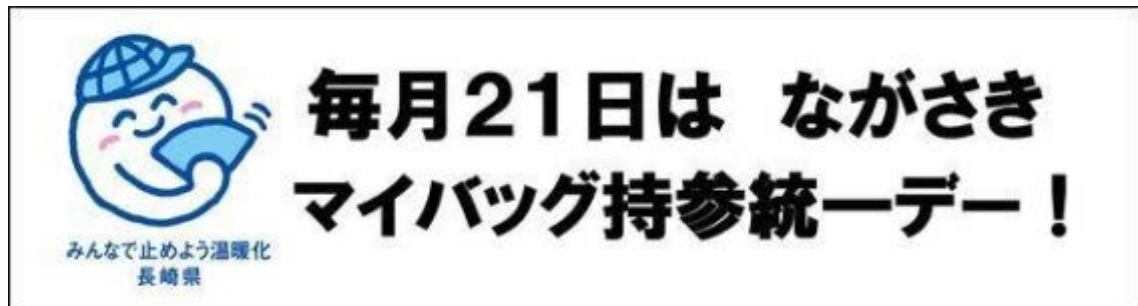
(出所：長崎県廃棄物対策課ツイッター)

(2) スーパーマーケット、生協・大学生協・農協、百貨店、コンビニ、ドラッグストアのレジ袋有料化の取組について

- ・コンビニやドラッグストアにおいては有料化の取組が進まず、地域全体で事業者が足並みを揃えて有料化に取り組むのが困難な状況である。

(3) レジ袋削減の施策を行政計画に位置付けている背景、レジ袋削減対策の各種3R政策における重要度

- ・廃棄物処理計画においては、廃棄物発生量の最小化に向け、廃棄物発生を抑制するライフスタイルへの転換を進めていくためにレジ袋の削減（マイバッグ持参）に取り組むこととしている。



(出所：長崎県ホームページ)

(4) 近年新たに取り組んだ取組内容

1) 近年新たに取り組んだ取組内容の詳細

- ・平成 27 年度は 10 月のマイバッグキャンペーン期間中に、街頭キャンペーンを実施し、チラシとエコバッグの配布を行った。

2) 取組の効果

- ・期間中のマイバッグ持参率は平成 26 年度に比べ 3.2% 上昇した。

(5) レジ袋削減対策の拡充予定

1) レジ袋削減対策の課題について

- ・環境保護に関心の高い層はすでにマイバッグ運動を実践しており、マイバッグ持参率は横ばいの状況である。さらなる活動の拡大が課題であるとともに、持参率の目標をどこに設定するかよく検討する必要がある。

2) 今後強化したい取組、新たに取り組たいもの

- ・有料化に取り組む事業者の拡大に向けて取組を検討したい。